

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2023-005
2.研究課題名	急性ストレスが習慣的回避行動に及ぼす影響
3.研究期間	令和 4 年 月（倫理委員会承認後）～ 令和 6 年 3 月 31 日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） 目標を実現するための能動的な行動である「目標志向行動」は繰り返し遂行されることで、刺激に対する自動化された行動である「習慣行動」に移行する。習慣行動は遂行に伴う認知的負荷が小さく、習慣行動への移行は省力的な応答を可能にするものであるが、随伴する結果に応じた変化も生じにくいという特徴ももつ。したがって、習慣行動に過度に依存することは長期的には不適応的な行動が持続する原因にもなりえる。 これまでの研究で、急性ストレスによって習慣行動への依存が生じやすくなることが複数の研究で明らかにされてきた（Fournier et al., 2017; Schwabe & Wolf, 2009）。しかしながら、これらの研究において検証の対象となった習慣行動は、それに伴って望ましい結果が得られる行動である「接近行動」であった。その一方で、臨床心理学的問題においてみられる不適応行動は、しばしば不快な状態を低減させる機能をもつ「回避行動」の性質を有する。急性ストレスの影響が習慣的回避行動への依存に対してもみられるか否かを検証することは既存の研究知見を補完するうえで有意義であるといえる。そこで、本研究においてはストレス負荷が習慣的回避行動に及ぼす影響を検証する。 なお、本研究計画は、心理的ストレス負荷試験を行うため、一定の侵襲を伴う計画であることから、川内南地区「人を対象とする医学系研究」倫理審査委員会への申請が適当と判断した。 対象者（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 本研究計画ではストレス群と統制群の 2 群に参加者を無作為に割りつける。検定力分析に基づき、各群約 40 名（計約 80 名）の大学生・大学院生を対象とする。研究の包含基準は下記の通りである。 【包含基準】 (a)仙台市近郊に在住の 18 歳以上の大学生および大学院生であること（本学の学生を含む） (b)日本語を母語とすること (c)過去 3 年以内（現在を含む）に、精神疾患の診断を受けていないこと、および精神的な問題のために通院等の治療を行っていないこと (d)実験参加時に身体的に健康であり、身体疾患に罹患していないこと。特に、本研究で測定する指標への影響、およびストレス課題に伴って生じるおそれがある有害事象のリスクを軽減するために、内分泌系疾患、

	自己免疫疾患，心臓血管系疾患，呼吸器系疾患，皮膚疾患，失神やてんかん発作の経験などが無いこと。暑さ・寒さなど皮膚感覚に過敏でないこと。 (e)喫煙経験が無いこと。 (f)（女性の場合）無月経・月経不順でない，妊娠中でない，および妊娠の可能性が無いこと。 (g)実験参加時に本研究で測定する指標に影響する服薬（主に経口避妊薬，β遮断薬）を行っていないこと。 (h)実験実施時に極度の睡眠不足や疲労状態にないこと。 (i)実験直前（3時間以内）に激しい運動，カフェイン摂取，アルコール摂取をしていないこと。 (j)実験実施時に複数日にわたる別の研究に参加していないこと。 (k)実験実施時に研究実施者と同じコース（東北大学教育学部・教育学研究科臨床心理学コース）に所属していないこと。 問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 教育心理学講座・臨床心理学分野 Tel：795-6146
--	--

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）